

## 教えてください、あなたのことを ②

東京都青梅市 塩野圭子 さん（おうめ環境市民会議 / 染色作家）

つなげるつながる会員さん

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A ぎりぎり 50 代もあと数日限りの年女。出身は東京都調布市です。京王線がまだ調布までしか行っていない頃の、線路がそこで切れている風景をよく覚えています。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 平成元年、青梅に引っ越して来てまず気になったのが、日の出町の「最終処分場」という言葉でした。

子ども3人も小学生になっていく中で、当時の西多摩生協に入り、食品添加物や石けん運動、ごみ問題などさまざまな環境課題に関心が広がりました。青梅市のリサイクルセンターや西多摩衛生組合などの中間処理施設、そして谷戸沢の第1最終処分場を見学してみると、「このままではいけない！」と強く思うようになりました。その頃できたのが「青梅の水とごみを考える会」です。

第2処分場建設反対のトラスト運動にも加わり、風の塔を作ったりゲート前へ座り込んだり、強制収容の日にはあのフェンス越しにこの国の現実を見た思いがしました。そんな中で導き出された「市民側のビジョンを検討する場」としての「ごみかん」にも、自然に参加していたような気がします。

Q ごみ問題に関すること以外に、趣味や生きがいは何ですか？

A 土を耕し、野菜やハーブ・染料植物などを育てています。四季を通してその姿を見続け描き留め、デザインして型紙を彫ります。土の力や野の命を自分の感性で受止め布の上に表現して行く事は、私の大切なライフワークです。

もう一つは、地域子どもたちと河原や野山でもの作りをする事。野草で染める、草から紙を作る、枝から筆を作り土から絵の具を作って自分だけの旗を描く、ドンダリだんごに草だんご、自然と遊び自然の豊かさを満喫しています。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 残る人生があと20年として「これから自分のやるべき事は何か？」を考えています。目の前の庭から生み出される作物と作品を通してできる事。土と水と空気と光を守り小さな生き物たちが生き続けられる選択をする、それが当たり前に見える人を育てる事。この環境に対して、誠実に生きたいと思っています。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 多摩地域をはじめとする全国自治体の実態調査と比較検討などがとても参考になります。自治体というのは意外とお互いの情報交換をしていないようなので、これをもっと有効に活用できるのではないかと思います。



写真は自作の型染め用の型紙です。「クジャクチョウ」と「ウスバキチョウ」。これを使つてのりを置き、植物染料や顔料で染色します。